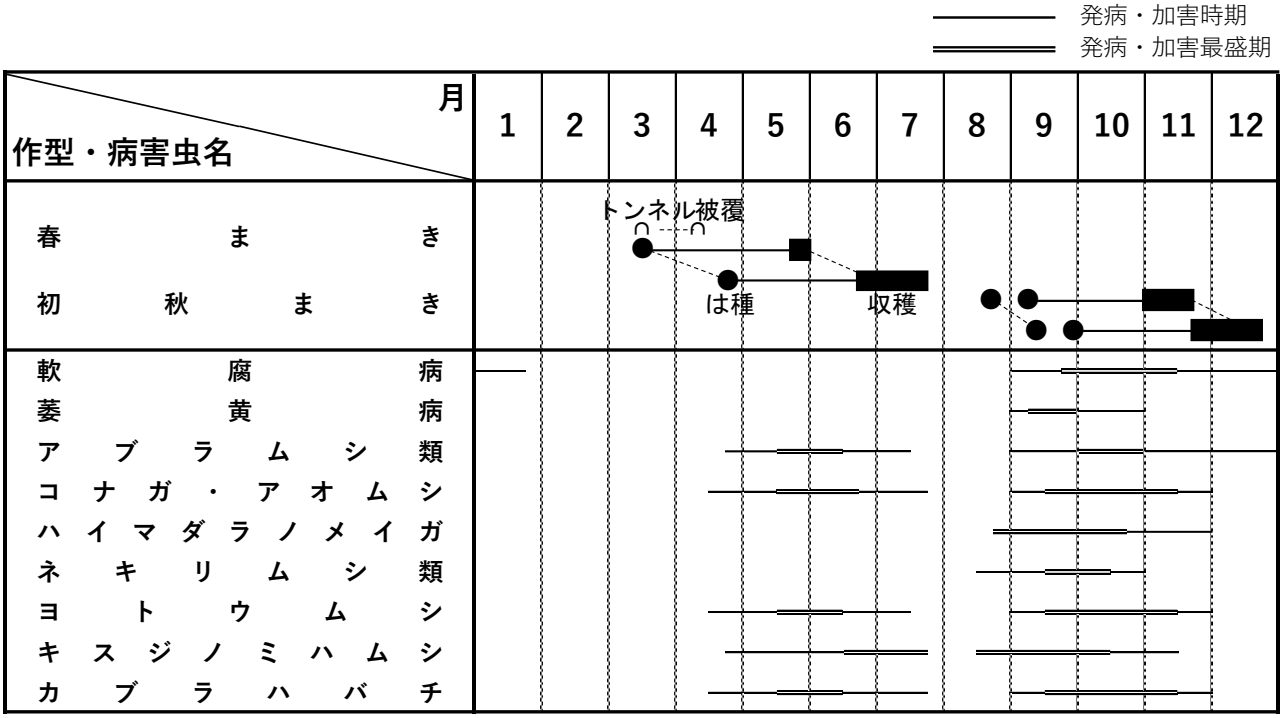
だいこん

農薬取締法上「だいこん」と「はつかだいこん（ラディッシュなど含む）」は別作物である。
また、「だいこん」は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれないので、葉を食用にする場合でも「だいこん」か「根菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。
なお、「間引き菜、つまみ菜」への農薬使用については、後述のコラムを参照すること。



軟腐病

留意事項

1 高温多雨の年に発生が多い。
2 キスジノミハムシやヨトウムシの食害痕からも発生しやすい。

防除方法

1 イネ科、まめ科作物との輪作を行う。
2 高うねにして、排水を良くする。
3 初秋まきでは、過度の早まきは避ける。
4 発病株は、直ちに、ほ場外へ持ち出し処分する。
5 チッソ過多にならないよう、適正施肥に努める。
6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・カスミンボルドー、カッパーシン水和剤　＜Ｍ１＞　＜２４＞【1000倍　14日／3回】
・バリダシン液剤5　＜Ｕ１８＞【500倍　7日／4回】
・スターナ水和剤　＜３１＞【1000倍　14日／5回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

萎黄病

留意事項

1 土壌温度26～29℃の時に発生が多い。

防除方法

1 初秋まきでは、早まきを避ける。
2 耐病性品種（YR）を用いる。
3 発病株を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
4 土壌消毒を行う。（ⅩⅢ土壌消毒　参照）

モザイク病

防除方法

1 早まきを避ける。
2 耐病性品種を用いる。
3 シルバーポリフィルムで、マルチングを行う。
4 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項　参照）

アブラムシ類

留意事項

1 モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシなどが発生する。

防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
・ダントツ粒剤　＜４Ａ＞【3～6kg／10a　まき溝処理土壌混和　は種時／1回】
・プリロッソ粒剤オメガ　＜２８＞【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤　＜４Ａ＞【2000～3000倍　7日／2回】
・トランスフォームフロアブル　＜４Ｃ＞【2000倍　前日／3回】
・ウララDF　＜２９＞【2000倍　前日／2回】
・ベネビアOD　＜２８＞【2000倍　前日／3回】

コナガ・アオムシ

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
3 あぶらな科野菜を加害するほか、ナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどの雑草

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

にも寄生する。
4 コテツフロアブルは、幼苗期に使用すると薬害を生じる恐れがあるので注意する。

防除方法
1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
・プリロッソ粒剤オメガ ＜２８＞【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・グレーシア乳剤 ＜３０＞【2000～3000倍　7日／2回】
・アファーム乳剤 ＜６＞【1000～2000倍　7日／3回】
・ディアナSC ＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・コテツフロアブル 劇 ＜１３＞【2000倍　21日／1回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項
1 5月下旬より発生が始まり、8～10月の高温乾燥時に発生が多い。
2 キャベツ､はくさいも加害する。
3 食入前の防除に努める。

防除方法
1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
・プリロッソ粒剤オメガ ＜２８＞【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・グレーシア乳剤 ＜３０＞【2000～3000倍　7日／2回】
・アファーム乳剤 ＜６＞【2000倍　7日／3回】
・ディアナSC ＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・ベネビアOD ＜２８＞【2000～4000倍　前日／3回】

ネキリムシ類

防除方法
1 下記の薬剤を施用する。
・ダイアジノン粒剤5 ＜１Ｂ＞
【4～6kg／10a　全面土壌混和または作条土壌混和　は種時／1回】
【6kg／10a　土壌表面散布　生育期（21日）／1回】
・プリロッソ粒剤オメガ ＜２８＞【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
・アクセルベイト ＜２２Ｂ＞【3～6kg／10a　株元散布　7日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ヨトウムシ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ディアナSC ＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・プレオフロアブル ＜ＵＮ＞【1000倍　14日／2回】
・ベネビアOD ＜２８＞【4000倍　前日／3回】
・アクセルフロアブル ＜２２Ｂ＞【1000～2000倍　7日／2回】
・**ＢＴ剤** ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

キスジノミハムシ

留意事項

1 年3～4回発生で成虫越冬する。
2 成虫は葉を、幼虫は根を食害する。
3 高温乾燥時に多発する。
4 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は、5回以内（但し、は種時のまき溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布は合計2回以内）。
5 フォース粒剤の成分テフルトリンの総使用回数は、2回以内（但し、は種時までの処理は1回以内、は種後は1回以内）

防除方法

1 早まきを避ける。
2 幼虫に対して、下記の薬剤を施用する。

・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ＜４Ａ＞
【4～6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
【9～12kg／10a　全面土壌混和　は種時／1回】
【6kg／10a　散布　生育期（30日）／1回】
・フォース粒剤 劇 ＜３Ａ＞
【6～9kg／10a　全面土壌混和　は種時／1回】または
【4～9kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
【6kg／10a　株元散布（14日）／1回】

3 成虫に対して、下記の薬剤を散布する。

・グレーシア乳剤 ＜３０＞【2000～3000倍　7日／2回】
・アクセルフロアブル ＜２２Ｂ＞【1000倍　7日／2回】
・ヨーバルフロアブル ＜２８＞【2500倍　前日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

カブラハバチ

防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。

・プリロッソ粒剤オメガ ＜２８＞
【カブラハバチ類　6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　14日／1回】
・グレーシア乳剤 ＜３０＞【カブラハバチ類　2000～3000倍　7日／2回】
・ディアナSC ＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・ベネビアOD ＜２８＞【カブラハバチ類　2000～4000倍　前日／3回】

だいこんのつまみ菜、間引き菜への農薬使用について

収穫・出荷時の状態	農薬の使用
つまみ菜より若いダイコン	**農薬は使用しない。** 農薬を使用した場合は収穫・出荷しない。
つまみ菜 ：本葉おおむね2枚以上	ラベルを確認し、注意事項に「間引き菜、つまみ菜には使用しないこと」の旨の記載がある農薬は使用しない。 また、間引き菜、つまみ菜の収穫をする日を「収穫日」として、使用時期を遵守する。
間引き菜 ：本葉おおむね4枚以上	

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。